GREENDAY2017報告

2017年2月11日〜12日に行われた研修イベントGREENDAYより報告レポートです。

テーマ１　地域の魅力を生かして起業する

井田 芙美子氏（株式会社いただきますカンパニー代表取締役）
食を通して子どもたちが未来へ生き抜く力をはぐくみたい」そんな思いから生まれた、十勝の畑をピクニックするガイドツアーの概要と大切にしていることについてお話いただいた。仕事と家庭のワークライフバランスをとりながら、好きなことを仕事にすることを学べた。

テーマ２　コケるは恥だが役に立つ

國見竜平（北海学園大学)小林彩佳（北海道大学大学院工学院）
ezorockでコアメンバーとして活動した卒業間近の２人が送る、参加型ワークショップ。参加者自身の失敗経験のリストアップや分析を行った。「コケ恥」から「コケ始へ」ととらえる、失敗はその後に生きるというメッセージが伝えられた。

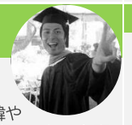
テーマ３　個性を生かしたチームづくり

田中 靖人氏（合同会社Dialogger 代表社員）
「よしやろう！」と最初はやる気があっても、途中からなんとなくモチベーションが下がってしまいチームがギクシャクすることも。モチベーションの観点から、「強いチームとは」について学べた。実際の事例を交えながら、参加者も共感するような失敗とその対策等興味深い話がつづいた。

テーマ４　世界で活躍するリーダーの原動力とは

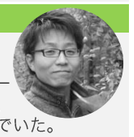
本村 拓人氏（株式会社グランマ 代表取締役）
世界各地で貧困の解消をテーマに事業を行うゲストの事業開始の背景や、モチベーションの浮き沈み、理想の仕事論、世界の貧困から見える日本の貧困などについて、参加者の質問に答えながら解説を行った。

テーマ５　大学生の奨学金を考える ~コープさっぽろの事例より~



対馬 慶貞氏
(生活協同組合コープさっぽろ経営企画室室長)
コープさっぽろが実施している大学生育英奨学金の経緯や仕組みについて紹介。大学生を対象に食生活の改善などの研究、食育活動を展開するなど、他の様々な取り組みにも話が及んだ。

テーマ６　ミニ四駆から学ぶPDCAサイクル



草野 竹史氏（NPO法人ezorock 代表理事）
ミニ四駆を通してPDCAサイクルを学ぶ毎回恒例のワークショップ。参加者がチームを作って課題に取り組み、課題を達成するために何が必要なのかを参加者は学んでいた。

テーマ７　天気から考える北海道の災害 ~よりよい選択のヒントとは？~

森山 知洋氏
(お天気＋プラス代表,気象予報士,HBC気象キャスター)
気象予報士で防災士でもある森山氏を招いて、過去、現在未来の天気についての解説。もしも豊平川が氾濫したらというシミュレーション映像をなどを通して、防災のポイントを知れた。

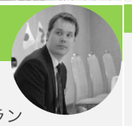
テーマ８　“ローカル”で働く

麻生 翼氏（NPO法人森の生活 代表理事）
下川町、石狩市、栗山町の3市町の地域資源を生かした仕事をしている3人の仕事についてお話を伺った。地域の人との人間関係は？どんな地域活性化活動を行っているのか？などの質問が飛び交った。

テーマ１０　野外ロックフェスが作り出す世界

若林 良三氏（株式会社WESS 常務取締役）
ezorockが産まれたRISINGSUN ROCK FESTIVALやそれを運営する(株)WESSの歴史についてプロデューサーの若林さんより聞く。「2日間だけの楽園」を作り出すためのファンやアーティスト、周辺市町村などとの連携などについて知ることが出来た。

テーマ１１　北海道のとなりのとなりの国 フィンランドと一緒に考える



ユハ・トゥイスク氏
(フィンランド北部大学合同北海道事務所代表)
北海道ほどの面積で日本と同じくらいの人口のフィンランドの、高い教育水準を生み出した教育システムやその背景を解説。フィンランドの留学生と理想の教育や地域について意見を交わした。

テーマ１２　ワカモノの本音vsオトナの本音

柴田亮平氏(合同会社ステイリンク/GuestHouse waya)
喜多洋子氏(地域コーディネーター・かどまーる)
小林亮太郎氏
(一般社団法人AISプランニング/天神山アートスタジオ)
ゲストの仕事紹介を通して、「まちづくり」とはなにかを考えた。ワカモノからの質問にゲストそれぞれが独自の考えを述べた。

代表の小言

D・I・Yの本当の意味とは？

私が初めてRSRの環境対策活動に参加したのは、21歳の時でした。その時にコンセプトとして掲げられていた「Do It Yourself〜自分たちのことは、自分たちの手で〜」という言葉に出会い、それから16年、活動の中で当たり前のようにこの言葉を使ってきました。しかしお恥ずかしいことに、先日初めてこの言葉が生まれた背景を知りました。

第二次世界大戦後、イギリスのロンドンで、荒廃したまちを「自分たちの手で復興させていこう」という動きがあり、そのスローガンとして生まれ、広まり、使われてきたそうです。

その後「日曜大工」などの意味へと変化して日本へも浸透したようですが、イギリスがはじまりとされる野外音楽フェスティバルにはその本来の意味が残っていて、私たちは自然とその考え方を受け継いでいたのかもしれないと気付き、「マジか?」と驚きました。ezorockの活動への考え方がこの歴史的背景とピシッと一致し、ぼんやりしていたものがシンプルになるような…そんな印象でした。

“誰かがやってくれるだろう”ではなく、“自分が参加する”ことから。

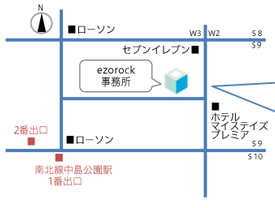
私たちはそんなメッセージを活動を通して伝えていきたい。そんなことを再認識させてもらったような気持ちです。

原点を再認識したezorockを今年度もよろしくお願いします。

草野　竹史

NPO法人ezorock 会員向け情報誌 vol.27　2017.4
Rock The Life ! ezorock

〒064-0809　札幌市中央区南9条西3丁目1-7
TEL/FAX　011-562-0081
E-mail　info@ezorock.org
WEB　https://www.ezorock.org/
https://www.facebook.com/ezorock/　https://twitter.com/ezorock/



NPO法人 ezorock

NPO法人ezorock 会員向け情報誌　www.ezorock.org

Rock The Life ! ezorock

2017.4
vol.27

2016年度 活動報告レポート

今月の写真
全プロジェクトから2016年度の活動写真を集めました。

NPO法人 ezorock

2016年度 活動報告REPORT

地域数	活動回数	活動人数	会員数
22市町村	293回 （359日）	のべ2,579人	活動会員239人 サポート会員13人

ezorockは2017年で活動17年目を迎えます。

予測のつかない激動の時代の中で,
改めて野外ロックフェスティバルの世界に
大事なヒントがあると感じています。

野外フェスでは、主催者が用意できるのは
50パーセント。
残りは来場者による主体的な参加で
成り立っていると言われています。

サービスだけに頼らず自分たちも
フェスをつくる一員だという認識で,
当たり前のように助け合ったりする姿が
あちこちで見られます。

「Do it yourself」

この姿勢や価値観を、日常の中で、
今の時代に合うように再構築していくことが
求められている気がしています。

環境対策活動 EarthCare

野外音楽イベントや地域のお祭りなどでごみの分別ナビゲートなどをはじめとする環境対策を実施。

目的 ごみが増加した大量消費社会の中で,ごみを通して人々の価値観を変化させる
2016年総括 RISING SUN ROCK FESTIVAL2016 in EZO(以下RSR)では新たな試みとして海の環境汚染に関しての投票をしてもらい,来場者・ボランティアの意識が変化した(たか)
活動回数 **8回**(RSR'16,HTBイチオシ！まつり,モエレ沼芸術花火、澄川パフォーマンス通り等)
活動人数 のべ**612人**
結果(RSR'16) ごみ回収量:**6,3t**,リサイクル率:**77.6%**,オリジナルごみ袋配布:44,000枚,ecoアクションキャンペーンブース:972人,投票:92人
ボランティアの声 ezorockのブースをすべて回ることにより,**自然,人,ごみの**繋がりを知識と体験を通して学べた(大学生男性)

RSR オーガニック ファーム

RSRで出る生ごみを若者の手でリサイクル。生ごみと牛糞を何度も攪拌し,できた堆肥でじゃがいもを作り,それがRSRで来場者の手に戻る。

目的 食べ物のつながり(循環)を実感する機会を設け,食への関心を日常へ持ち帰ってもらうことで食品ロスを減らす
2016年総括 参加人数は前年度より約140人増加し,子どもたちへも体験を提供し,多くの人へメッセージを伝えることができた(ガシアン)
活動回数 体験ツアー:**18回**,RSRでの焼きじゃがいもの配布:6回,出店:1回(アースデイ東京)
活動人数 のべ**145人**
結果 収穫:**8ｔ**,生ごみの堆肥化:**3ｔ**,いも配布:**286個**
ボランティアの声 太陽のあたたかさや土の匂いを感じながら,じゃがいもをコンテナいっぱいに収穫したときの達成感！(20代男性),堆肥の蒸気が上がっていたりホカホカと温かさを感じたりと,本当に堆肥が生きているんだと感動した(20代女性)

プロジェクト「NINOMIYA」

森に眠る未利用材の薪作りを通して,森林と都市部の若者をつなぐ。豊かな森林を次世代に残すため,都市部の若者に身近な木,森,森づくりについて伝えていく。

目的 国内の林業の衰退に対して,国産材にこだわる利用者を増やし,次世代に森林を残し続けるために,都市部の若者が国産の森林や木材に価値を持つ
2016年総括 ずっと撮影したかった薪割りのスロー動画を取材時に撮影していただいたり,新たに未利用材をご紹介いただいたりと支援者が増えた(くま)
活動回数 合計**104回**:薪作りツアー88回,子ども受け入れ6回,月に一度は森づくりクラフトブース8回,イベント(COOP育樹祭・植樹祭等)5回
活動人数 のべ**490人**
結果 薪約**100㎥**, 利用店舗**16軒**(森彦,Plantation, SappoLodge,Guest House WAYA,ダルセーニョ, UNTAPPED HOSTEL他),個人宅8軒他
関係者の声 社会の循環の仕組みについて考えるキッカケとなる,良い取組みだと思っています。

石狩体験キッズ「チポロ」

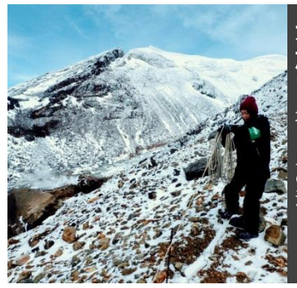
札幌から車で35分の石狩で,子どもたちの自然体験活動を行う。

目的 生きる力と呼ばれる社会を生きる上で必要な力の醸成につながる自然体験活動の場を提供する。
2016総括 新しい名前で再スタート。初めて石狩で宿泊活動を実施。日帰り環境教育プログラムが増え,アクティビティも増えた(いずみん)
活動回数 **9回**:福島の子どもたち北海道へ遊びに行こう(コープさっぽろ組合員活動委員会),おもしろ探検隊・メラメラ冒険隊(公益財団法人北海道環境財団),ふくしまキッズ2016ボランティア(環千歳空港子どもグリーンツーリズム推進協議会)他
活動人数 **のべ290人**
結果 石狩での子ども参加者のべ224人,アクティビティを10つ程度作成・実施。
参加者の声 自信がついた(保護者),木や自然のこともいっぱい知ることができた(小学6年生)

ポロクル

札幌の自転車問題の解決を目指し,ルール・マナー啓発や,自転車を共有する仕組み"サイクルシェア"の現場運営を行う。

目的 自転車の違法駐輪台数が全国ワースト1位,78%が自転車が怖いと感じたことがあるという札幌市の課題に対してその解消を目指す。
2016総括 自転車の押し歩きが増えていたり,歩行者への思いやりで歩道を徐行している自転車をみて『まち』への影響を実感した(カズキ)
活動回数 イベント:**3回**(SAPPORO LOVE BICYCLE DAYS,まちなか運動会,Mizube day SAPPORO(以下MdS)),現場運営:**190日間**
活動人数 イベント**80人**,現場運営スタッフ**62人**
結果 イベント参加人数：約**600人**(MdS以外),約30人(MdS自転車貸出・ツアー人数)
関係者の声 全国から注目されている最大の要因は,若者たちが現場を運営しながら,市民の行動変容に繋がる活動にも取り組んでいる事です(関係者)



大雪山国立公園 旭岳自然保護プロジェクト

北海道最高峰にて「旭岳自然保護監視員」の方々と,登山道の整備等の自然保護活動を行う。

目的 利用者による自然保護活動の仕組みづくり
2016総括 58人→70人と参加人数が増え,全国大学生環境活動コンテスト(東京)などで発表し知ってもらう機会も増えた。旭岳の新しいエリアでの登山道整備も考えています(ピングー)
活動回数 **8回25日間**,フォーラム等での発表:**4回**
活動人数 活動:**70人(のべ194人)**(過去最多)
発表等:のべ22人
結果 5か所以上の散策路の修復を行った。
ボランティアの声 山に登る人としてではなく,支えている人として見ることができた(大学生/女性),人間が旭岳という自然を保全している意味や,そもそもの自然という言葉の意味についても考えさせられた。(大学生/男性)

ボラ旅北海道

道内各地のNPOや市町村と連携し,教室で学んだ知識・技能を課題解決のための社会的活動に生かすサービスラーニングプログラム。

目的 環境問題などの地域課題に取り組む現場と普段学ぶ分野や興味のある分野についての実践,実感を求めている若者を結びつける
2016総括 昨年より30回以上活動。大人数でなく1～2人で継続的な活動が増えた（ななこ）
活動回数 **9市町村で82回103日間**(放課後自然体験活動,里山づくり体験,清水町災害ボランティア等)
活動人数 **218人**(のべ**282人**)
結果 放課後自然体験活動:大人の目を増やすことで自由度を高めたり遊びを盛り上げることができた。里山保全活動:高齢化の中強度の高い作業を担当し川や湿地の整備を進めることが出来た。
ボランティアの声 自分自身のこの里山での経験を思い出して,とても大切だと感じた(社会人女性)

サポートチーム

広報部

活動がメンバー不足に陥らないよう,各プロジェクトの広報をサポートする。

2016総括 5月1日にWebサイトリニューアル。活動当日のリピーター層が増えてきたことから,メールマガジン以外で情報を届けたいと,LINE@を開始（ななこ）
活動 Webサイトの管理・リニューアル,コラム更新:１３回,facebook更新,LINE@開始:96人,ニュースレター3回発行,メールマガジンの発行,ラジオ放送: 4 回,利用者の定期的な調査(アナリティクス,FBインサイトの活用)
結果 ホームページアクセス数125,327回(前年より16%増加,ページビュー数33.8%増加),Facebookページ 2,158いいね:前年より156増加,閲覧数は横ばい,webサイトへつながる割合は増加)

研修部

円滑に活動を実施できる様,活動で求められるファシリテーションやチームビルディングなどの知識や技術・マインドの向上を目的に研修プログラムを実施する。

2016総括 様々な所属のメンバーと一緒にGREENDAYをつくりあげることができた(ソーシャルビジネスサークルPlus,Be harmony,UMF,など)
活動 GREEENDAY2017,市町村ナイト(大樹町, 小平町,占冠村),2016年度報告会
結果 GD2017:129人,,市町村ナイト:78人.報告会35人
参加者の声(GREENDAY) 北海道や世界で活躍する人達の話も参考になり,同世代の深い考えをもつ人たちと交流することでもすごく刺激を受けました！(20代男性)
参加者の声(市町村ナイト) 参加するだけでその市町村の人産や特徴が分かる他,その地域の方の雰囲気等もわかり行った気分になれます。今度は参加した市町村に直接遊びに行ってみたいなと思っています。(30代男性)

交流部

プロジェクトを横断したつながりを持つ機会を提供し,プロジェクトを越えた情報共有や協力を生む。事務所の利便性の向上のため,備品やスペースの管理も実施。

2016総括 新たなボランティア募集の場となっていた。
活動 **8回**:交流会3回,忘年会,運動会,クリーンデイ3回
参加人数 138人
参加者の声(GREENDAY) 普段あまり関わることのないプロジェクトの人たちとの交流を通して,これからもっと積極的に多くの人と交流したいと考えた(20代男性)

年間カレンダー

4月
2日(N)薪割りツアー活動開始～11月27日)
7日(ボ)放置自転車対策シールの配布
15日(ボ)あつまっこ子放課後子ども教室報告
22日(研)facebook cafe
23日(オ)ZOZOオーガニックファーム(～11月20日)
23日～24日(オ)アースデイでおかえりじゃがいも
25日(ボ)森っこアフタースクール開始(～3月13日)
27日(ボ)森っこクラブ活動開始～3月15日)

5月
2日～5日(ボ)水辺のリスクマネジメント研修
8日(ボ)ふる里くり山・里山づくり体験ツアー活動開始(～12月11日)
25日(ボ) 和みの森 宿泊研修の受入
28日～29日(ボ)しむかっぷ村民山菜市
28日(N)月に一度は森づくりクラフト(～2月18日)
28日(交)クリーンデイ・交流会

6月
3日・4日(N)植樹祭お手伝い
5日(ボ)TH WOODボランティア
17日(研)市町村ナイト第六弾「占冠ナイト」
18日(研)第4回はまちゃすフェスティバル環境対策活動
18日～19日(旭)大雪山国立公園旭岳自然保護プロジェクト開始(～10月10日)
19日(他)町内会活動鴨々川清掃)

7月
7日～10日(ボ)森ジャンボリーモカワ20 16
8日(他)乾燥野菜作りのデザイン
25日～5日(石)ふくしまキッズ20 16夏北海道大沼
26日(石)第一回メラメラ冒険隊
30日(ボ)SAPPORO♡BICYCLE DAYS
30日(E)幌北町内会夏まつり環境対策活動
6日(ボ)まちなか運動会自転車ブース運営
7日～11日(石)コープさっぽろ「福島の子どもたち北海道へ行こう」

8月
12日～19日(石)ふくしまキッズ20 16夏北海道千歳
12日～14日(E)ZOZO 16環境対策活動
25日(E)割り箸フェスティバル
26日～28日(E)イチオシ！まつり環境対策活動

9月
1日(他)札幌市市民合防災訓練参加
1日(E)割り箸フェスティバル
3日(石)第一回おもしろ探検隊(滝野公園出張版)
3日・4日(E)割り箸フェスティバル
9日・10日(N)森育樹祭
10日(石)科学の祭典と石狩
10日(E)モエレ沼芸術花火20 16環境対策活動
10日(E)澄川パフォーマンス通り20 16環境対策活動
11日(E)北の収穫祭ワインカーニバル環境対策活動
11日(ボ)イコロの森TKボランティア
12日(石)第一回おもしろ探検隊
17日～19日(石)TH CAMP
22日(石)第二回おもしろ探検隊
22日(ボ)厚真町森のひろばボランティア
24日～25日(ボ)ひみつきちキャンプボランティア
24日～25日(ボ)南ヶ勝地域資源調査
24日～25日(石)石狩さけまつり環境対策活動
24日(研)市町村ナイト第七弾「小平ナイト」
30日(ボ)清水町 災害ボランティア

10月
1日(ボ)小平町を知ろう！体験ツアー
1日(交)クリーンデイ・交流会
4日・5日(ボ)清水町 災害ボランティア
8日(ボ)Music Day Sapporo運営ボランティア
14日～16日(ボ)谷保のそらっこ親子ツアー
15日～16日(オ)ばるきち感謝祭
26日・27日(他)澄川ちょい飲み連営ボランティア
29日～31日(ボ)南ヶ勝地域資源調査
30日(旭)北海道大学サステナビリティウィーク発表
4日～6日(石)森のようちえん全国交流フォーラム
10日～11日(ボ)南ヶ勝地域資源調査
15日(他)澄川わくわく食堂
17日(広)ニュースレター発送デイ
18日(交)facebook忘年会

11月
18日(旭)市民学び合いフォーラム発表
28日(交)クリーンデイ
12日～14日(ボ)大樹つるつるキャンプボランティア
19日(他)澄川わくわく食堂
22日(交)facebook運営会
27日(N)薪の配送開始(～3月10日)

12月
11日・12日(研)GREEDAY 20 17
14日(N)ジップダグクラフト
16日(他)澄川わくわく食堂
18日(石)第四回おもしろ探検隊
24日～26日(ボ)南ヶ勝地域資源調査
25日(研)facebook 20 16報告会
25日(ボ)TH SNOWMOUNTAINボランティア
26日(石)おもしろ探検隊(滝野公園出張版)

1月
4日～5日(石)第五回おもしろ探検隊
9日(ボ)南ヶ勝地域資源調査まとめ
10日(研)市町村ナイト第九弾「小平ナイト」
16日(他)澄川わくわく食堂
18日～19日(ボ)20日:ボロワールディックスキー大会
18日～19日(ボ)ふる里山くり山 炭焼き体験ツアー
18日～19日(旭)東川町宿泊拠点改修
18日(ボ)TH SNOWMOUNTAINボランティア
18日(ボ)ふる里山くり山 炭焼き体験ツアー
26日(ボ)ふる里山くり山 炭焼き体験ツアー

2月
11日(ボ)森っこホリデーボランティア
11日(N)ジップダグクラフト
19日(他)澄川わくわく食堂

3月
(E)EarthCare (オ)RSRオーガニックファーム (N)プロジェクト「NINOMIYA」 (石)石狩体験キッズ「チポロ」 (ボ)ポロクル (旭)大雪山国立公園旭岳自然保護プロジェクト (ボ)ボラ旅北海道 (研)研修部 (広)広報部 (交)交流部 (他)その他

いただいたご寄付・助成金

■ご寄付(敬称略)
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
株式会社エコノス
株式会社ニッセンレンエスコート
認定NPO法人ランナーズサポート北海道
古本募金ハピぼん(NORTH CREATE)
BESSパートナーズ((株)アールシーコア)
その他,たくさんの個人・イベント参加者のみなさま

■助成金(敬称略)
独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金
公益財団法人北海道青少年育成協会
「北海道青年活動元気づくりプロジェクト」

報道採録

■紙媒体
7/1 北海道新聞(旭岳募集)
8 アルキタ北海道(EARTHCARE)
11/15 北海道新聞(スタッフ崎川)
11/22 北海道新聞(NINOMIYA)
12/23 北海道新聞(事務所)
2/11 北海道新聞(GREENDAY2017)
3/14 北海道新聞(澄川)

■WEB
栗山町HP(ボラ旅北海道)
公益財団法人北海道環境財団
「COOL CHOICE」(NINOMIYA)

■テレビ
6/30 NHKほっとニュース北海道(NINOMIYA)
7/5 NHKニュースおはよう北海道(NINOMIYA)
11/21J:COMデイリーニュース(澄川)
3/17 HTBイチオシ!(澄川)